

# 中学生向け金融学習支援 e-learning 教材の実践と評価

森永 陽介<sup>†</sup> 劉 洋<sup>†</sup> 松永 信介<sup>†</sup> 稲葉 竹俊<sup>†</sup>

東京工科大学 メディア学部<sup>††</sup>

## 1. はじめに

政府と日本銀行が平成 17 年を金融教育元年と位置づけ、全国の小中高校等での金融教育を推進している[1]。国内外を問わず「金融教育」は今正に求められている教育の一つである。

現在、大学と各種金融機関が連携する形で、アナログ・デジタルを問わず様々な金融教育の取り組みが実践的に行われている。本学も 2006 年に小学高学年児童向けの金融教育のための e-learning 教材「スイートのケーキ屋さん」[2]を、2008 年には幼稚園児・小学低学年児童向けの絵本「スイートちゃんとマネーくん おかねのたび」[3]を、現りそなホールディングスと共同で開発してきた。しかし、このような試みは他の例も含め小学児童向けが多かった。

そのような背景のもと、本プロジェクトでは、これまでの小学児童向けの教材に続き、2009 年に中学生向けの金融学習教材「チャレンジ銀行員！君の銀行員度を CHECK！」を開発したが、教材の完成と Web 上での公開及び中学生を対象とした効果検証には至らなかった。

そこで本研究では、この 2009 年に開発した中学生向け金融学習支援 e-learning 教材を改良し、その内容に連動するワークシートを制作した上で、実際の授業や職場体験の場での有効性をはかる試みを行った。

本稿では、教材並びにワークシートの概要とその評価実験の結果について述べる。

## 2. 教材概要

本研究で開発した教材は、銀行員の仕事をシミュレーション方式で学ぶことができるという点が大きな特徴である。銀行員の仕事を通して金融知識を身につけ、それらを実践することで、より深く理解できる教材となっている。

教材は大きく 3 つに分かれ、STEP1「ビジネスマナー」、STEP2「銀行業務」、OJT（職場内研修）で構成されている。ここでは評価実験で使用した STEP1 と STEP2 の詳細について述べる。

Practical use and evaluation of e-learning materials on introductory finance for junior high school students.

<sup>†</sup> Yosuke Morinaga, Liu Yang, Shinsuke Matsunaga, Taketoshi Inaba.

<sup>††</sup>School of Media Science, Tokyo University of Technology

STEP1 は「あいさつ」「表情」「身だしなみ」「言葉遣い」の 4 つの LESSON で構成されている。教材の進め方として、まずは疑似講義を受けることでビジネスマナーの基礎知識を身につけることから始め(図 1(a))、その後、身につけた知識を確認クイズで定着しているか確認する(同図 (b))。



図 1 STEP1「ビジネスマナー」

STEP2 は「預金」「融資」「為替」「相談」の 4 つの LESSON で構成されている。STEP1 と比べ内容が難しいということもあり、お金の動きなどが視覚的に理解できるアニメーションによる解説を受けてから、疑似講義で基礎知識を身につける(図 2(a))。STEP2 では確認クイズではなく、ミニゲームが用意されている。これは中学生にとって難しい内容である金融についての抵抗を減らすために導入されたものであり、これによりゲーム感覚で学ぶことができる(同図 (b))。



図 2 STEP2「銀行業務」

## 3. ワークシート

本教材の援用として、ワークシートを制作した。このワークシートには様々な記入形式があり、空欄に書き込むもの、絵と言葉を線で結ぶものなどがある。多様な記入形式を用意することで使用者を飽きさせず、最後まで集中して教材を利用することをねらいとしている。

## 4. 評価実験

### 4.1 概要

本教材が中学生のビジネスマナーについての知識や金融知識を高めるのか、また教材の仕組みが学習の支援になっているのかを評価するため、実証実験を行った。その概要は以下のとおりである。

- ・対象：東京都国立市立国立第一中学校  
2 学年(134 名)、3 学年(165 名)
- ・実施日：2011 年 11 月 4 日、11 日(2 学年)  
2011 年 11 月 24 日、25 日(3 学年)
- ・使用教材：STEP1(ビジネスマナー)(2 学年)  
STEP2(銀行業務)(3 学年)  
※LESSON4(相談)は除く
- ・実施の流れ
  - ①各 STEP の学習
  - ②確認クイズ・ミニゲームの実施
  - ③確認テストの実施

また、専門家である銀行員 3 名と中学校の教員 8 名にも教材とワークシートについての評価をしてもらった。

### 4.2 評価

教材とワークシートの評価はアンケートにより行った。専門家と教員向けには自由記述、生徒向けには 4 段階評価、2 択、選択形式のアンケートを使用した。

#### 4.2.1 生徒の評価

まず STEP1 のビジネスマナーの大切さについての理解度を問う設問では、約 9 割の生徒が肯定的な回答をし、内容の分かりやすさについても約 9 割の生徒から肯定的な回答が得られた。次に教材と併用したワークシートに関する設問であるが、ワークシートの分量についての問では、4 段階の回答に均等に分かれる結果となった。この結果からワークシートの分量は適当であったと考えられる。ワークシートが役立ったかどうかの問に対しては、約 9 割の肯定的な回答が得られた。各 LESSON 末に実施される確認クイズについては、理解に役立った確認クイズを回答してもらったが、2 択形式で進んで行くタイプのもののみ約 5 割にとどまった。これは他の確認クイズと比べ単調な作りになっていることによって難易度に差が生じたためであると考えられる。

STEP2 については、まず銀行のサービス利用経験があるかどうかを聞いた。その結果、職場体験で口座を開設するなど 3 割が預金サービスを利用したことがあるとの回答が得られた。次に銀行業務について興味を持っていたかどうかの設問では、6~7 割の生徒が否定的な回答をし、金融や銀行業務に関して苦手意識を持っていることが分かった。学習した銀行業務ごとの理解度では、LESSON2「融資」で 6 割弱、LESSON3「為替」で 4 割強と割合が減って行っている。このことから、サービスの利用経験がある預金以外は中学生にとって初めて学習する内容が多く、理解度に差が表れたのではな

いかと考えられる。各 LESSON 末に実施されるミニゲームについての設問では、ゲーム性が高ければ高いものほど教材の理解に役立ったと答える生徒の数は少なくなっている。ゲーム性が高いものは興味を引きやすい一方、学習しているという意識よりもゲームをしている感覚が強くなってしまったため、その点において改良が必要である。

#### 4.2.2 教員の評価

STEP1 については「敬語は学校でも使う場面があるので、良かった」、STEP2 については「関心を持つようになるかは分からないが、そのきっかけにはなったと思う」との意見があった。これらの意見から授業で本教材を使用することによりマナーや金融を学ぶきっかけになることが分かった。

#### 4.2.3 専門家の評価

教材について「融資の場面で、質問と回答をダイレクトにつないでいる点は理解が深まる」と評価があった一方で「P/L と BS の表記が解説部分にある箇所があり、中学生には補足が必要な言語と思われる」という意見があった。教材の構成に問題は無かったが、中学生が対象であるという点を考えると改善の余地がある。

## 5. まとめ

本研究では、中学生を対象とした金融学習支援 e-learning 教材とワークシートを使用した学習効果の検証を実際に中学校で行い、教員と専門家も含め評価してもらった。

その結果、本教材が中学生のビジネスマナーについての知識や金融知識を必ずしも高めたとは言えないが、初めて金融知識に触れる中学生にとって本教材が理解の一助になったということが示唆された。しかし、ミニゲームなど分かりやすくするための仕組みが逆に理解の妨げになっていることもあり、中学生向けの教材としてのバランスをとることの難しさを感じた。これらの反省を踏まえ、今後はより学習効果を得られるよう教材に改善を施して行きたい。

## 参考文献

- [1]全国銀行協会, “金融経済教育の一層の充実に向けて” [http://www.zenginkyo.or.jp/news/entryitems/news2002\\_29\\_1.pdf](http://www.zenginkyo.or.jp/news/entryitems/news2002_29_1.pdf), 2002
- [2]坂本友里, 神田祐佳, 稲葉竹俊, 松永信介, 鈴木陽彦, 小学生向け金融経済教育用シミュレーション型ゲーム教材の開発と実践, 日本教育工学会 第 23 回全国大会講演論文集, pp. 527-528, 2007
- [3]山田萌香, 西澤美希, 松永信介, 稲葉竹俊, デジタル絵本を介した協調学習の試み, 教育システム情報学会 2008 年度第 4 回研究会報告集, pp. 38-41, 2008